

自分の兄の戦友の人達に会えて私は、

この式典に参加してよかった

特乙一期 小林 登

弟 小林 緑（東京）

この予科練の碑が建つということを、三月頃に電話で聞きましたが、最初は終戦から二十年もたっているのに、今までなにひとつ連絡がなかったので信じられなかったのですが、五月の中頃に、今度は手紙で除幕式の招待状が届きました。この時はじめて慰霊碑が建つということが現実と分かったのです。

私は、土浦という地名は、かつての海軍の航空隊があった所という認識しかなく、土浦という所に行ったことがありませんでしたが、せっかく予科練出身の生き残りられた方々が苦勞して作られた碑の除幕式典にはなにをおいても参加しようと思いました。こうして、五月二十七日の朝をむかえたのであります。

土浦の駅に降り立つと、自分と同じ遺族の人たちが沢山いたので、最初の不安はどこかに消えて式典に参加することができました。この霞ヶ浦の湖畔の丘に建てられた碑を見て、あの激しい戦いで散った若人達の冥福を祈らずにはいられなく

なり、思わず胸を締め付けられるような思いがしました。自分の兄の戦友の人達に会えて私は、この式典に参加してよかったと思っています。

（昭和四十二年四月五日号掲載）